

亜急性硬化性全脳炎における髄液プロテオーム解析の試み

研究分担者： 山口大学大学院医学系研究科医学専攻小児科学講座 長谷川俊史

表1 質量分析

スポット No	等電点	分子量
1	10付近	約160 kDa
2	10付近	約150 kDa
3	10付近	約130 kDa
4	10付近	約100 kDa
5	10付近	約90 kDa
6	10付近	約50 kDa
7	10付近	約45 kDa
8	10付近	約10 kDa
9	7.6付近	約10 kDa
10	6.8付近	約10 kDa
11	6.5付近	約10 kDa

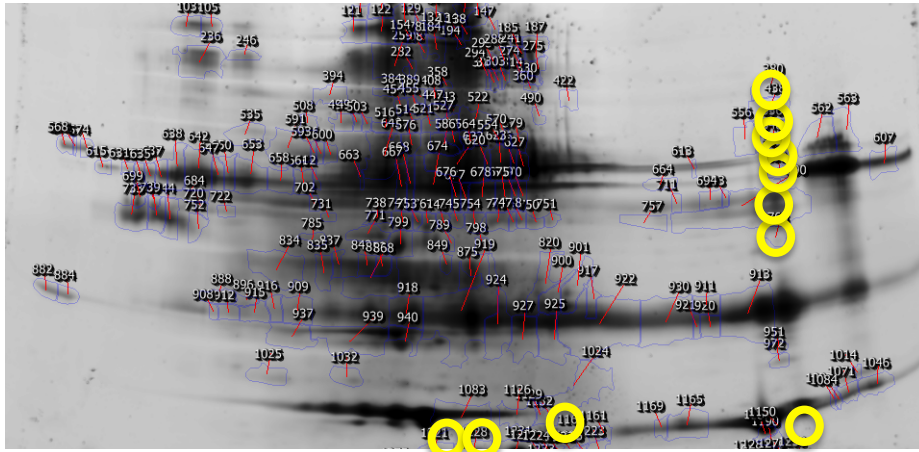


図1 二次元電気泳動

- SSPE患者と疾患対照（睡眠障害）患者の髄液各1検体を用いて二次元電気泳動を施行した。
- 自動解析でSSPEと疾患対照を合わせて472個のスポットを検出した。
- SSPEで疾患対照に比して有意に強いスポットが11個選別された。

解説

1. 亜急性硬化性全脳炎患者の髄液では疾患対照に比して11個の強いスポットが選別された。
2. 質量分析によりスポットNo.11はDermcidinである可能性が示唆された。
3. 今後検体数を増やし、DermcidinのSSPE病態への関与について検討していく。